



TITLE:

# 花山第8回研究會記事 (プラネタリウム特輯)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

花山第8回研究會記事 (プラネタリウム特輯). 天界 1937, 17(191): 175-175

ISSUE DATE:

1937-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167433>

RIGHT:

スウェーデン (1ヶ所) ストックホルム.

ロシア (2ヶ所) モスクワ, レニングラード.

米 国 (4ヶ所) シカゴ, フィラデルフィア, ニューヨーク, ロサンゼルス.

日 本 (1ヶ所) 大阪.

自分は、この大阪のプラネタリウムが、我が邦の人々を遠近より惹きつけ、天文文化の普及を促し、新しく正しき人世観や、宇宙観を教へて、世の思想を善導し、邦家の文化史上に大きい貢献をするやう、望む次第である。

### 花 山 第 8 回 研 究 會 記 事

1月28日14時より、花山天文臺圖書室に於て

出席者 稻葉, 柴田, 公文, 小山, 荒木(九), 高倉, 宮本, 荒木(健), 高城.

講 演 宮本正太郎氏——1936年6月19日北海道枝幸に於て10米コロナグラフにより撮影された皆既食並に部分食乾板測定結果について.

すべてセクションペーパーを用ひ、乾板上のオリエンテーションを慎重に定め、形状明瞭な一紅焔の位置を規準として、プロミネンス及びコロナの流線の基部に於ける位置角を求め、これを太陽の中心による値に改め、4枚の皆既食乾板上に見得る限りのものをスケッチし、その測定點の總數は108個に達した。太陽及び月の見かけの半徑の比は乾板上の値と曆より求めた値とよく一致し、プロミネンスの高さも少くとも 30' 程度の信用がある。コロナ流線の基部の位置については静岡縣の清水氏の日食前後の太陽直接寫眞原板を拜借し得て、大いに便宜を與へられた。コロナ流線の基部における幅に大小2種あり、これがフロキユリ粒子との關係が認められ、第1の乾板に見える複雑な色球の組成とコロナ流線の幅との關係は1929年の日食寫眞にも認められて興味深い。

部分食寫眞から二次式によつて導かれた接觸時刻は渡邊講師の計算された値とよく一致する。その結果は

	I h m s	II h m s	III h m s	IV h m s
測 定	14 7 14	15 18 41	15 20 37	16 25 20
計 算	14 7 8.7	15 18 40.9	15 20 38.3	16 25 19.8

となり、皆既の時間は1分57秒となる。(當番 淡翠山人記)